



あゆみ

青梅市立河辺小学校
令和4年度12月号
青梅市立河辺小学校

学校便り No. 656
令和4年12月1日
校長 関谷 望

音楽会で学ぶ ～学びの価値づけ～

校長 関谷 望

早いもので、もう12月。令和4年もあと1か月となりました。

11月19日の音楽会には、たくさんの皆様にご来校いただき、ありがとうございました。本校としては平成30年度に開催して以来、久しぶりの音楽会となりました。

音楽科はコロナ禍で最も大きな影響を受けた教科です。令和2年度の臨時休校明け以降、国や都、市のガイドラインで、歌唱や吹奏楽器（鍵盤ハーモニカやリコーダーなど）の演奏が禁止とされた期間が、断続的に長くありました。今年度に入ってからでも、新型コロナウイルス感染症の状況により、その都度対応の変化を余儀なくされてきました。

（現在でも音楽の授業では、マスクを着用して歌ったり、リコーダー演奏の際には密にならないような工夫をしたりしています。）

音楽担当教員は、そのような中でも「子供が『音楽を学ぶ楽しさ』を味わえる授業」となるよう工夫してきましたが、どうしても学習を積み重ねられない部分もあり、学校としても歯がゆさや心苦しさを覚えることが多々ありました。

先が見通せない中、「感染状況や社会の情勢や雰囲気はどうであっても何とか実現できる形は…」と考えて、今回の音楽会を計画しました。

「歌唱をせず、リコーダー等の吹奏楽器を行わない、学級ごとの合奏のみ」という条件で発表を構成し仕上げていくことは、音楽担当教員にとっても大変難しいことですし、「みんなと音を重ねる」という経験が激減していた子供たちにとっても、大きな挑戦でした。実際、合奏を創り上げていく過程には、苦労する場面もありましたが、担任や教員・スタッフが子供たちの頑張りを価値づけ、心を育むことに努め、励ましてきました。

児童鑑賞日は、互いの学級の頑張りを認め合う温かい雰囲気と拍手に包まれた、素敵な時間となりました。そして、保護者鑑賞日での一人一人の演奏中の輝く姿と、演奏後の誇らしい表情に、音楽会が開催でき本当に良かったと思いました。頑張り切った子供たち、指導・企画・運営に一丸となって取り組んだ教職員・スタッフ、様々な面で支えてくださりご協力いただいた保護者の皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

河辺小学校では、大小様々な行事や体験学習を行っています。それらを「体験すること」だけでなく、「その経験から学ぶこと」を大切にしています。

今回の音楽会を例にとれば、子供たちは「音楽を学ぶ」「合奏を学ぶ」経験をしたわけですが、それを通して「仲間と協力して一つのを創り上げる」「難しいものにもあきらめずに挑戦する」「緊張しながら人前で堂々と発表する」等々、多くのものを学んでいます。多くのことを「音楽会で学ぶ」ことができました。

これらは、子供自身では気付きにくいこともあり、教師や保護者の皆さんの価値づけや称賛によって、子供たちの「学びの価値」が大きく向上します。その点でも音楽会に多くの方にご来場いただいたり、次週の学校公開にも多くのご参観をいただいたりしたことは、本当に有難いことです。

今後も、結果や成果だけでなく、子供たちが「学びの過程」で学んだことをしっかり価値づけ、称賛し、子供たちの成長を支え、促していきたいと思えます。

12月はマラソン大会や、通知表のある時期です。ご家庭でも、頑張りや取組を価値づけ、認める機会として活用していただければ幸いです。